

健全化判断比率等について(ポイント)

1 健全化判断比率(早期健全化基準以上の団体はない。)

(1) 実質赤字比率

全ての市町において黒字

(2) 連結実質赤字比率

全ての市町において黒字

(3) 実質公債費比率

市町平均(単純平均) 9.2%(対前年比±0.0ポイント)

早期健全化基準(25%)以上 該当団体なし

起債許可団体(18%)以上 該当団体なし

(4) 将来負担比率

市町平均(単純平均) 38.4%(対前年比▲0.5ポイント)

早期健全化基準(350%)以上 該当団体なし

2 公営企業の資金不足比率

経営健全化基準(20%)以上 該当事業なし

経営健全化基準(20%)未満 該当事業なし

1 市町別健全化判断比率の状況

(単位: %)

市 町 名	(1)実質赤字比率		(2)連結実質赤字比率		(3)実質公債費比率		(4)将来負担比率	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6
金 沢 市	—	—	—	—	2.6	3.4	20.7	20.7
七 尾 市	—	—	—	—	13.4	13.2	28.6	49.0
小 松 市	—	—	—	—	10.1	10.8	92.7	98.9
輪 島 市	—	—	—	—	15.9	15.4	—	—
珠 洲 市	—	—	—	—	17.5	16.3	—	—
加 賀 市	—	—	—	—	7.7	8.2	108.7	104.1
羽 咋 市	—	—	—	—	6.5	6.6	—	—
か ほ く 市	—	—	—	—	13.5	12.7	55.3	51.4
白 山 市	—	—	—	—	10.3	10.6	126.0	122.3
能 美 市	—	—	—	—	4.9	4.5	26.7	27.1
野 々 市 市	—	—	—	—	5.6	6.1	15.6	1.6
川 北 町	—	—	—	—	7.1	7.0	23.6	18.1
津 幡 町	—	—	—	—	7.0	7.4	71.1	76.1
内 灘 町	—	—	—	—	7.9	8.9	52.9	57.1
志 賀 町	—	—	—	—	7.0	7.7	—	—
宝 達 志 水 町	—	—	—	—	6.8	7.6	—	—
中 能 登 町	—	—	—	—	15.5	15.8	31.1	38.9
穴 水 町	—	—	—	—	11.5	8.8	77.2	69.9
能 登 町	—	—	—	—	4.0	3.8	—	4.2
単 純 平 均					9.2	9.2	38.4	38.9

早期健全化基準	11.25%～15%	16.25%～20%	25%	350%
財政再生基準	20%	30%	35%	—

2 公営企業会計別資金不足比率の状況

経 営 健 全 化 基 準	20%
---------------	-----

(単位: %)

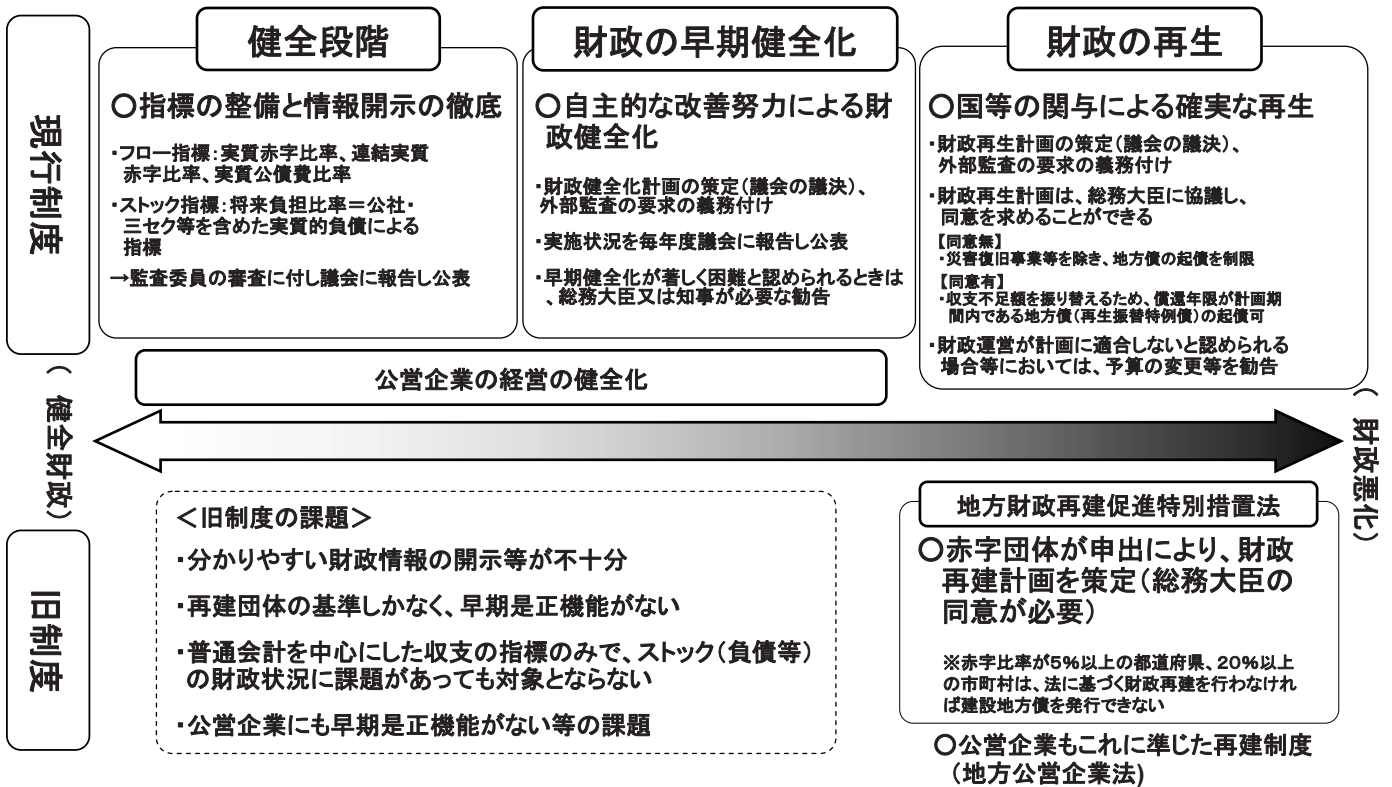
団 体 名	公営企業会計名	R7	R6	団 体 名	公営企業会計名	R7	R6
金 沢 市	市街地再開発事業費特別会計	—	—	川 北 町	簡易水道事業会計	—	—
	住宅団地建設事業費特別会計	—	—		農業集落排水事業会計	—	—
	水道事業特別会計	—	—		工業用水道事業会計	—	—
	工業用水道事業特別会計	—	—	津 幡 町	病院事業会計	—	—
	病院事業特別会計	—	—		水道事業会計	—	—
	中央卸売市場事業特別会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	下水道事業特別会計	—	—	内 灘 町	水道事業会計	—	—
	公設花き地方卸売市場事業特別会計	—	—		下水道事業会計	—	—
七 尾 市	水道事業会計	—	—		新エネルギー事業特別会計	—	—
	下水道事業会計	—	—	志 賀 町	水道事業会計	—	—
	病院事業会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	公設地方卸売市場事業特別会計	—	—		志賀町立富来病院事業会計	—	—
小 松 市	産業団地事業特別会計	—	—	宝 達 志 水 町	水道事業会計	—	—
	水道事業会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	下水道事業会計	—	—		病院事業会計	—	—
	国民健康保険小松市民病院事業会計	—	—	中 能 登 町	水道事業会計	—	—
輪 島 市	臨海土地造成事業特別会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	水道事業会計	—	—		分譲宅地造成事業特別会計	—	—
	下水道事業会計	—	—	穴 水 町	病院事業会計	—	—
	病院事業会計	—	—		水道事業会計	—	—
珠 洲 市	病院事業会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	水道事業会計	—	—	能 登 町	病院事業会計	—	—
	下水道事業会計	—	—		水道事業会計	—	—
加 賀 市	病院事業会計	—	—		下水道事業会計	—	—
	水道事業会計	—	—	羽咋郡市広域 圏事務組合	公立羽咋病院事業会計	—	—
	下水道事業会計	—	—		公設地方卸売市場事業特別会計	—	—
羽 咋 市	水道事業会計	—	—	南加賀広域 圏事務組合	公設地方卸売市場事業特別会計	—	—
	下水道事業会計	—	—		公設地方卸売市場事業特別会計	—	—
か ほ く 市	水道事業会計	—	—	白山石川 医療企業団	公立松任石川中央病院事業会計	—	—
	下水道事業会計	—	—		公立つるぎ病院事業会計	—	9.3
白 山 市	水道事業会計	—	—				
	工業用水道事業会計	—	—				
	下水道事業会計	—	—				
	温泉事業特別会計	—	—				
	工業団地造成事業特別会計	—	—				
能 美 市	水道事業会計	—	—				
	工業用水道事業会計	—	—				
	下水道事業会計	—	—				
	国民健康保険能美市立病院事業会計	—	—				
	温泉事業特別会計	—	—				
野 々 市 市	水道事業会計	—	—				
	公共下水道事業会計	—	—				

(R7:22団体70会計)

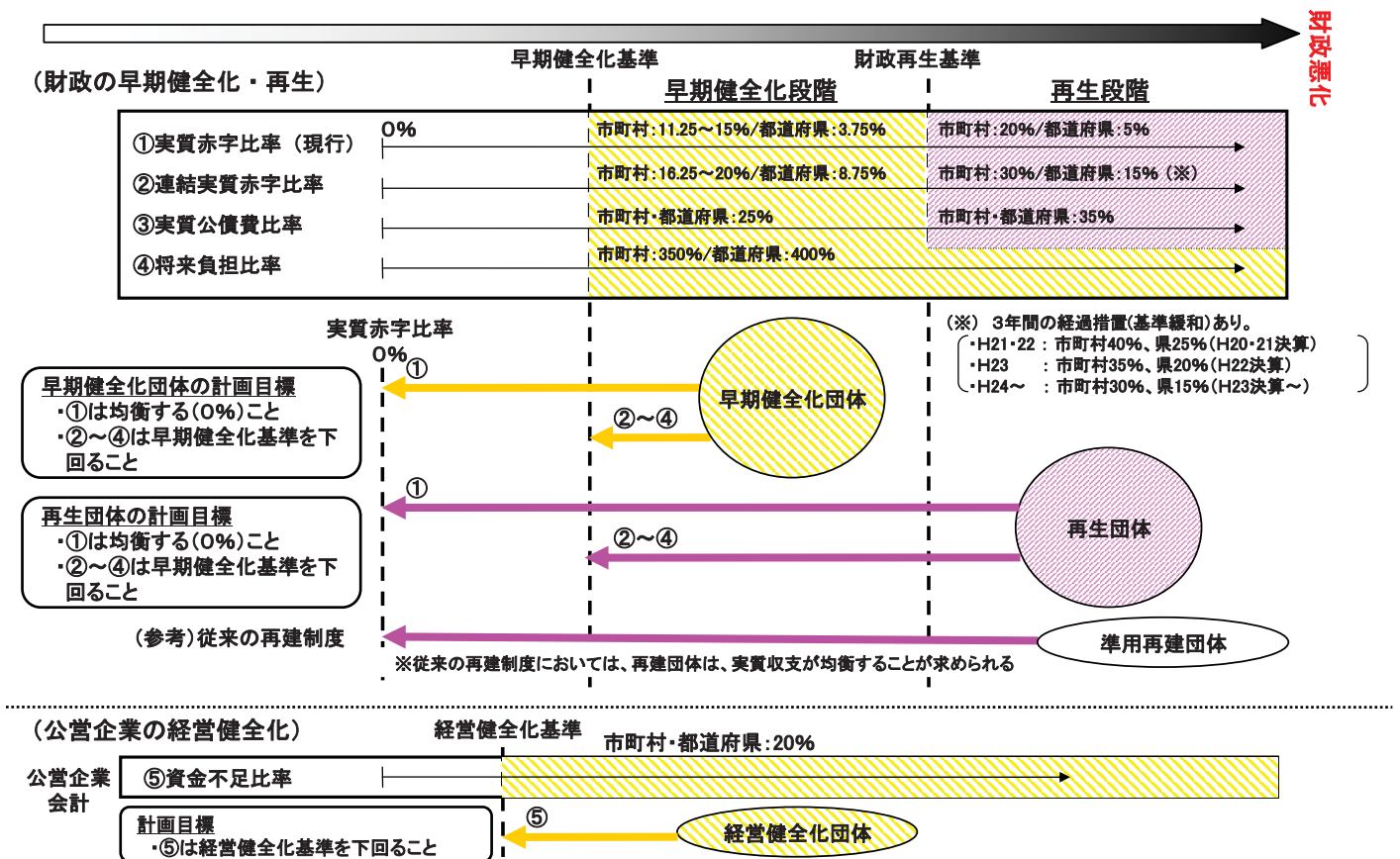
(R6:22団体71会計)

地方公共団体の財政の健全化に関する法律について

(指標の公表は平成19年度決算から、財政健全化計画の策定の義務付け等は平成20年度決算から適用)



財政の早期健全化・財政の再生・公営企業の経営健全化のイメージ



○ 各比率の算式

1 実質赤字比率

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

※標準財政規模：地方税、普通交付税などの毎年度経常的に収入される一般財源（使途の特定されていない財源）のことで、各地方公共団体の標準的な財政規模を示すもの

2 連結実質赤字比率

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

3 実質公債費比率

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

※準元利償還金：一般会計等（普通会計の範囲に相当）から一般会計等以外の特別会計への繰出金のうち、公営企業債の償還財源に充てたと認められるもの
・組合への負担金・補助金のうち、組合が起こした地方債の償還財源に充てたと認められるもの
・債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるもの 等

4 将来負担比率

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

※将来負担額：地方債現在高、債務負担行為に基づく支出予定額（公債費に準ずるもの）、公営企業への繰出見込額（公債費分）、退職手当の負担見込額、設立法人の負債額等の負担見込額（損失補償等による負担）、連結実質赤字額 等

5 資金不足比率

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模（営業収益－受託工事収益）}}$$

○ 各比率の対象範囲

会 計 区 分		主な会計区分等						
一般会計等		一般会計		実質赤字比率				
		ケーブルテレビ						
		墓地公苑						
		公共用地先行取得						
公営事業会計	公営企業	水道		連結実質赤字比率		実質公債費比率		将来負担比率
		簡易水道						
		病院						
		下水道						
		宅地造成						
		観光						
	収益事業	競馬		資金不足比率				
一部事務組合等	その他	国民健康保険						
		介護保険						
		一般廃棄物処理						
		し尿処理						
	一部事務組合・広域連合	病院						
		消防						
		土地開発公社						
	地方公社							
	第三セクター							